

授業科目名	文化人類学(2000017)		
時間割名	文化人類学(23204)		
時間割担当	紙村徹		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	火・3		

■ 授業の目標・概要

私たちの日常は、文化という意味の網の目に支えられてはじめて成立し、生きられるものとなっている。それゆえに、ふだん疑う必要すら感じられない当たり前のことが、異なる文化を生きる人びとには信じがたいものでありうる。この講義では、文化人類学が扱ってきた主要なテーマのいくつかについて、私たちの一生や日常生活に引き寄せつつ解説していく。これまで慣れ親しんできたものの見方や考えからいったん離れて、生きた現実を新しくとらえなおすための手がかりを得てもらう。

■ 学習の到達目標

1. 自己が確立するのは、他者との出会いと関係性によってである。他者なくして自己などありえない。私たちが日本人であるのは、異民族・異文化との出会いによってである。本授業を、こうした「関係―内―存在」としての自己意識であることを気づくための手がかりとしてもらいたい。
2. 本授業の受講生は看護学科に属していることを配慮し、人間がこの世に生れて生涯を過ごすプロセスの画期となる生、老、病、死に焦点を当てて講義する。学生諸君は、人間の生、老、病、死に渉る生き様を理解して、看護学の通奏低音としてのこうした真摯な人間の生き様をきっちりと受け取っていただきたい。

■ 授業方法・形式

基本的には講義形式である。時間があれば、ディスカッションをしたい。講義の中では、パワーポイント、VIDEO、OHP、OHCなどヴィジュアルな器材を使用し、分かりやすく進める。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション フィリピン セブ市の呪術医療 呪詛に対抗する
- 第2回 赤ちゃんはどこから来るの? その1 人工授精と「本当の親」、「血のつながり」って何?
- 第3回 赤ちゃんはどこから来るの? その2 メラネシアとオーストラリア・アボリジニの考え方
- 第4回 性差・ジェンダー差の根拠を問う フェミニスト元祖マーガレット・ミードの問いかけ
- 第5回 日本の伝統的な婚礼のシンボリズム 花嫁は死者?
- 第6回 家族とはなにか? その1 単婚家族と複婚家族、一夫多妻婚、一妻多夫婚
- 第7回 家族とはなにか? その2 女性中心の血縁家族、結婚がない社会
- 第8回 家族とはなにか? その3 妻貸し慣習は悪か?
- 第9回 人の愛のありがたさ ホモセクシャリティーをめぐって
- 第10回 男が一人前になるのはたいへんだ! 成人式とホモセクシャリティーの結合
- 第11回 男はイケメンでなくちゃ 水鏡に映った男の顔に惚れる娘
- 第12回 姥捨て山考 棄老の俗と高齢者の始末
- 第13回 長老支配制と隠居分家
- 第14回 東アジア圏の祖先崇拝と祖先になれない死者たち
- 第15回 まとめ

■ 成績評価の基準

授業中に課す4回の簡単なレポート(40%)と期末試験(記述式)(60%)を総合して成績とする。

■ 授業時間外の課題

毎回、授業内容に関する小課題を課し、自己学習(復習・予習)を促す。

■ メッセージ

できる限り授業内容に関する受講生の意見を聞きながらすすめたいと思っていますので、積極的に自らの意見を述べて下さい。また自分自身が生まれ育った環境で、いつのまにやら当然のように身につけてきた事がけっして当然のものではないことに気づいてもらいたい。私たちは自らの文化環境のなかで創り上げられた存在だと気づき、自らを開いていただきたい。

■ 教材・教科書

特定のテキストは使用せず、授業内容に関するプリントを配布する。

■ 参考書

参考図書、参考文献等については適宜、情報を提供する。